

事務事業名		中山間地域振興プロジェクト事業(下栗モデル)			会計	一般会計				
課等名		上村自治振興センター	係等名	産業経済部上村駐在	事業種別	政策	開始	22	終了	27
基本計画上の位置づけ	政策	7	自立・連携した地域づくり							
	施策	72	自立に向けた住民組織力の向上							
目的	対象(誰・何を)	下栗地区			対象指標	指標名及び単位			24年度数値	
	意図(どういう状態にするか)	①下栗の人口を増やす ②上村全体の交流人口を増やす				農家数				
	向上させたい上位施策の成果指標	自主的な地域活動5,500、自主的な地域づくりの参加者数200,000人				観光客数				
目標	種別	指標名及び単位			24年度計画	24年度実績	25年度計画	28年度見込み	備考(指標変更など)	
	成果指標	①下栗人口 (10/1現在)			100	105	100	90		
	成果指標	②上村交流人口			110000	129400	120000	120000		
定性目標										
事業概要	<p>庁内関係部署が連携体制を組み、中山間地域振興計画に基づく下栗プロジェクト事業を実施する。人口減少が進み、地域の担い手が高齢化する中山間地域の象徴的な課題が顕在化している上村地区の活性化を目的に、人の暮らしと美しい自然環境がたちづく、全国的にも貴重な景観と文化を有している「下栗地区」を重点対象地域とした中山間地域振興のモデルとなる取り組みを行う。</p> <p>下栗の景観と暮らしの文化を保全し、その価値を市民の財産として後世に伝え、そこに暮らす人々の生活を守るために下栗自治会が平成22年度に策定した「下栗の修景計画」の具体的な実施について支援する。地域景観全体の保全については、地域全体の取組みとするためにも市景観協定条例への指定、或いは飯田市文化的景観(市指定文化財)指定への取組みも視野に進めていく。担い手の高齢化が進んでいることから、県内外から「下栗応援団」(ボランティアスタッフ)を募り、事業を計画的に推進する。</p> <p>事業実施に併行して、課題が顕在化している鳥獣被害対策、農産物のブランド化、里山整備、観光受入体制の整備、エコツーリズムの推進等を新たにセットし、総合的に支援しながら、下栗のブランド力を高める。</p>									
事業内容					名称			活動指標		
24年度事業内容	<p>1 農業チーム 農業課と連携し、全国的にも貴重な景観と文化を有している「下栗地区」を中山間地域振興のモデルとなる取り組みを行う。 ・下栗応援団による遊休農地の耕作支援、地域美化活動の実施 ・モデル圃場での急傾斜畑の保全対策の実施 ・農産物ブランド化支援 ・農地、景観保全に対する集落合意形成への支援</p> <p>2 観光チーム 観光課と連携し、下栗地区の特徴を活かした観光振興に取り組む。 ・増加する観光客に対処するための交通ルール等受け入れ体制の整備 ・ガイド付きツアーの実施など下栗型ツーリズムの検討</p>				<p>1、下栗応援団の新規募集 2、遊休荒廃農地の耕作 3、ツアーガイド養成 4、ガイド付きツアーの普及PR 5、交通障害緩和対策</p>			<p>1、新規5組 2、耕作3,000㎡ 3、ツアーガイド12人 ガイド実施回数228回 案内人数4,188人 4、HP、チラシでのPR 5、紅葉シーズンに実施</p>		
	事業コスト					23年度決算額	24年度予算額	24年度決算額	25年度予算額	特定財源内訳、補足
事業費計(千円)①		0	0	0	0	※下栗自治会として山村再生プランの補助事業を導入				
国庫支出金										
県支出金										
起債										
その他										
一般財源										
人件費計(千円)②		536		1,430						
正規職員所要時間		150		400						
臨時職員所要時間										
総事業費①+②		536	0	1,430	0					
事業内容・目標達成状況の振り返り	遊休農地対策として地域外のボランティアを募り、畑作を実践している。H24は新規で5組の参加があり、現在12組、30名余の組織となった。地元の行事にも積極的に参加している。観光面では、観光客の増加に比例し、下栗ガイドツアーの利用数も増えている。また、急激な観光客の増加に対して、地区内の交通事情が悪化している為、交通誘導員、駐車場管理人の配備を行い対応した。									
改革改善の考え方	①問題点	遊休農地化が進み、地域の景観維持対策が急務である。観光客も急増しているが、施設、駐車場、対応する地元人員の許容範囲を超えている。下栗での観光問合せも多いことから現地案内窓口の設置も必要。旅行会社主導で地域が受身に								
	②改革提案	・ボランティア組織の自立化。地域全体の景観保全に対する取組み。観光面では駐車場管理、交通誘導員の管理経費(人件費等)の財源確保について検討する。下栗の来訪ルールを定め、来訪者へ周知、協力を求める。								